

G

元気な

S

しもすわっ子

M

学びの発表会

11月26日(土)

# 生涯学習

No.585

かおり高い

文化のまち

町校長会代表挨拶



下諏訪北小学校長

坂本 さかもと

真一 しんいち

先日に行われたサッカーワールドカップカタル大会での対ドイツ戦、日本代表チームの大活躍は、素晴らしいかったですね。ニュースから感動と勇気をたっぷりいただきました。毎日積み重ねている練習の成果と尊さをたくさん感じました。昨日よりは今日、今日よりも明日というように、サッカー選手は毎日練習を積み重ねながら学んでいます。そして上達します。

同じように、園児・児童・生徒のみなさんが毎日積み重ねているもの、それが「学び」です。この前はできなかったことが今日できるようになる。この前は負けてしまったけれど、今日は勝つことができました。それはたいへん嬉しいことであり、楽しいことでもあります。そこには友情や連帯感も生まれます。学ぶことはとても楽しいことなのです。

さて、今日は「GSM 元気なしもすわっ子学びの発表会」です。下諏訪町内の保育園、小学校、中学校、特別支援学校、高等学校、そしてコミュニティスクールが一堂に会して、それぞれの「学び」を発表し合います。そのことによって、さらに自分たちの「学び」が深まり拡がっていきます。下諏訪町ならではのこの発表会も、この形となり今回で6回目を迎えました。ご参加のみならず、町の子どもの姿に学びながら、また地域における学校の役割に期待を寄せていただきながら、楽しい時間をお過ごしください。町全体が協働して、今日の発表会を創り上げることができれば幸いです。

地域に根ざし地域と関わり合いながらの学習を考える機会にしようと、11月26日(土)下諏訪総合文化センターで「GSM 元気なしもすわっ子学びの発表会」が開かれました。町内の保育園・小中学校、花田養護学校、下諏訪向陽高等学校、コミュニティスクールの代表がそれぞれ今年度取り組んだ学習や活動を発表しましたが、その様子の一部をお伝えします。

## とがわ保育園

子どもたちが体を動かす遊びを楽しむために

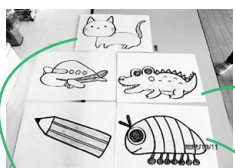
子どもたちと関わるなかで、話を聞くときにふらふらしたり、椅子から落ちたりする様子に、背骨を立てることが弱くなっているのではないかと問題に感じていました。そこで、町の健康運動指導士東城勸先生に相談し、昨年度より、子どもたちの体幹を鍛えるために、「コアキッズ体操」を指導していただいています。

動きのポイントをイラストで示して、子どもたちが意識できるようにしたり、生活の動線上に体を動かすコーナーを設けたりしたところ、少しずつ姿勢保持の時間が伸び、外遊びに積極的な子が増えてきました。発達段階に沿った動きを継続して行うことが大切だとわかりましたが、どうすれば楽しく無理なく続けられるのが課題として残りました。

そこで、今年度は、日常生活や遊びの中に、身体を動かす遊びを取り入れる工夫を考え、継続して体幹を使って動くことができるように取り組んできました。

## とがわ保育園 取り組み紹介

**すず組 (3歳児) 動物ストップゲーム**  
 いろいろな動物の動きをして体幹を鍛える  
 曲に合わせて歩き、曲が止まったらカードの動物になってとまる。



ワニ



ネコ



ダンゴムシ

**ひよこ組 (0・1歳児) 室内に坂道を設置**  
 バランス力、手足の力をつける  
 アンパンマンに変身! 自由にハイハイ



### 下諏訪南小学校 6年2組 劇の発表

#### 下諏訪町の地名から「なぜ、『承知川』と名付けられたの」

総合的な学習の時間では、みんなで思い出に残る、協力してできる劇をしたいという意見が多く挙がり、下諏訪町の民話から子どもたちに身近な承知川にある「承知橋」の劇をすることになりました。

(劇の台本一部抜粋) 『信州の民話伝説集成 南信編』宮下和夫編著2005年参照  
 武田信玄が川中島の合戦に向かう途中のことでした。下諏訪の入口、久保村にさしかかると、ちょうどそこに橋がかかっていました。

神主 かけつける。「信玄様、この橋からは諏訪明神様のお住まいになります。馬に乗ったままでは困ります。歩いてお通りください。」

信玄 「なんだと、このおれに馬を降りろと言うのか。おれは信玄だぞ。」

信玄 は、そう言って聞き入れませんでした。

信玄 橋を渡り始める。半分ほど進んで、馬が揺れて転げ落ちる。

信玄 もう一度、「では行くぞ」信玄、転げ落ちる。

家来 「二度も馬から落ちるなんて・・・」

神主 かけつける。「信玄様、どうか歩いてお渡りください。明神様がおいかりのようです。」

家来 おびえ顔で信玄にささやく。「そうです。歩いていきましょ。このままでは、みんなの気持ちが落ち着かなくて、戦どころではなくなります。」

信玄 「承知した。歩いていくことにしよう。お前たちも馬から降りて渡れ。」

信玄 こうして無事に下諏訪に着くと、さっそく諏訪神社に行きました。

信玄 「先ほどは、大変無礼なことをしてしまいました。どうかお許しください。これから上杉謙信を討ちに行くところですが、どうかわたしをお守りください。」

諏訪神社では、信玄の真心が伝わり「諏訪大明神」と書いたのぼりをさすけました。

村人① 「この橋は武田信玄が馬から落ちて、歩いて渡ることを承知した橋だったなあ。」

村人② 「どうやら、そのことで、この橋を承知橋、この橋の下を流れている川を承知川と呼ぶようになったようだよ。」



◎下諏訪総合文化センターの2月の休館日は、7・13・14・21・24・28日です。



御柱祭について調べてみよう



映画づくり  
 下諏訪北小学校 6年1組  
 伝統の素晴らしさを考える

映画をつくろう！  
 ↓  
 伝統の大切さを  
 多くの人に伝えたい



映画づくり… 気をつけることは



今年は御柱の年ということで御柱祭とはどのようなお祭りなのか、柱になる木の決め方とか、なぜ木を曳くのか、どうして春宮と秋宮があるのかななどを調べました。

小学校生活最後ということもあり、調べたことを基に自分たちのオリジナル映画をつくろうということになりました。

映画のタイトルは、柱を曳く御柱になぞらえて旗を振りながら進むことから「御旗曳き」とつけました。

しかし、いざ映画づくりに挑戦してみると、セリフ、目線、間、表情、仕草など気をつけていきたいことがありましたが、みんなで話し合いながら進めていきました。

まだ映画は作成途中ですが、完成したら、参観日で家の人や全校のみんなに見てもらいたいと考えています。



出題者：2年3部 こさか けいたろう 小阪 慶太郎

第5問

下諏訪町を流れる砥川に関する問題です。

かわぞこ  
 砥川の川底に見られる  
とがわ てんせき  
 「砥川転石」という石。  
 この石を、古代の人は、  
 何に利用したでしょう？

- ① 装飾品
- ② 家の材料
- ③ 刃物



社会科の地理の単元「地域学習の手法」という学習内容があり、その学習の延長として、歴史・地理・公民的なものから夏休みの課題で一人一問作成しました。G S Mではその中から14問のクイズを発表しました。

\*G S M発表会当日は新型コロナウイルス感染症防止のため、学級閉鎖となりましたので、9月30日文化祭(なぎがまつ)での発表ビデオを流しました。

出題者：2年1部 むらた こうき 村田 暁生

第11問

問11 次は秋宮の問題。  
 秋宮の「しめ縄」は、  
 日本で何番目の大きさ  
 でしょう？

- ① 1位
- ② 2位
- ③ 3位



出題者：2年1部 もちずみ らいき 両角 来輝

第6問

僕のおじいちゃんの家の隣にある  
 石碑に関する問題です。この石碑は「ある場所」から  
 見つかったものです。



「ある場所」とは、どこ？  
 ①家を建てるときに地面を掘っていたら出てきた。  
 ②諏訪湖の中から引き揚げてきた。  
 ③家の物置から出てきた。

身近な地域 歴史の調査  
 下諏訪中学校 2学年社会科  
 クイズで発表

# GSM元気なしもすわっ子学びの発表

第6問  
答え

②諏訪湖の中から引き揚げてきた。

答え

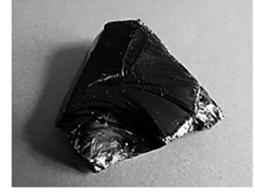


ちなみに…昔、この場所は諏訪湖だったんだそうです。  
(今、石碑がある場所！)

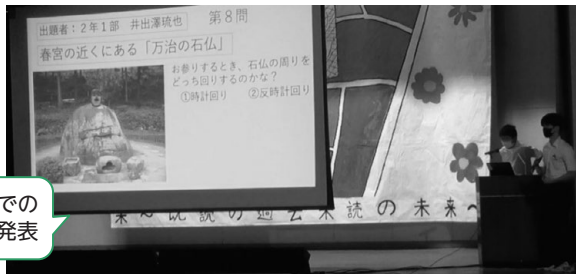


第5問 答え ③刃物

「砥川転石」とは、黒曜石のことです。  
古代の人々は黒曜石を槍や弓の先の刃に利用していました。  
下諏訪町の黒曜石は、日本中に運ばれ、日本中で使われていました。



校友会での動画を発表



正解は～

第11問  
答え

1位🏆  
でした～🎉



いや～まさか日本一とは。  
重さ500キロ、長さ13mなんです。

## マレットゴルフ場整備



マレットゴルフの練習



マレットゴルフ大会参加

## 観光パンフレット



春宮「空飛ぶぶた!？」

## 学校中庭ガーデニング



総合的な学習の時間「社の時間」(全校縦割り)に、身近な環境を活かすために自分たちができること、興味あることをグループで考え取り組みました。

下諏訪中学校 総合的な学習の時間  
社の時間 ～地域の方と共に・地域の良さを伝えるため～



- ・下諏訪に住んでいても初めて見た場所がありました。下諏訪で私たちがまだ知らない場所や歴史がたくさんあるので、町の皆さんにもいろいろ知ってもらいたいです。
- ・地域の方との活動をこれからも続けていきたい。
- ・地域のためにできることをこれからも探していきたい。
- ・自分たちが住む場所を大切にしていきたい。

◎下諏訪図書館の2月の休館日は、1・2・3・6・13・20・24・27日です。

## 地域の力をお借りした校内及び校外活動の充実

花田養護学校は、医療的ケアを必要とする児童生徒も多く、コロナ禍においては、子どもたちの安全を第一に考え、試行錯誤しながらこれまでやってきました。

今年度は、地域のお力をお借りしながら進めてきた小学部の二つの取り組みを紹介します。

一つは、外部講師による音楽療法、もう一つは、小学部の3つの行事についてです。

重度重複障がいの子どもたちが在籍する春グループでは、今年度より音楽療法のセッションを取り入れています。春グループは6クラスありますが、それぞれの子どもたちの実態やその日の様子に合わせて、活動内容を組んでいただいています。



小学部では、例年、校外での学習の機会として、3つの行事を計画しています。1～4年生合同での親子遠足、5年生では宿泊学習6年生では修学旅行です。

1～4年生の親子遠足は、保護者の参加をとり止め校内レクリエーションとして実施しました。そのメインイベントは、「アート塾てらーと」さんによるアートセラピーのワークショップです。

スポンジの筆を使って、ぎゅっと押し

たり、ぐいっと引き寄せたり、手に直接

絵の具をつけて、ダイナミックに色をつけて、世界に

一つだけの、自分だけの、「太陽のバッグ」が完成し

ました。昼食は「いずみ屋」さんのお弁当。お

弁当という特別感が子どもたちとても嬉しかったようです。

5年生の宿泊学習は、すべての活動を校内に置き換えて実施しました。「kassaneベリータ

ス」さんに来ていただき、体育館でベリーダンスを鑑賞しました。



いつもの体育館とは思えない異国情緒あふれる空間で子どもたちの好きな曲、知っている曲も踊っていただき、子どもたちは笑顔いっぱい楽しんでいました。

そのほか、

体育館をアスレチックパークにして、身体を動かして遊び、タイダイ染めを体験しました。昼食は、「いずみ屋」さんのお弁当で形態食にも対応してもらいました。

6年生の修学旅行は、行き先を下諏訪町、諏訪湖周辺に設定し、校内組もリモートで参加しました。

出発して最初に行ったのは、ハーモ美術館のティーセントホールで音楽療法士の花見さんの歌とピアノのコンサートを鑑賞。コンサ

ートの後は、ホテル「紅や」さんへ移動しての昼食。さまざまな形態食にも対応いただき、おいしく

いただきました。ホテルの大きなお部屋をお借りして、お土産のお

買い物体験、フォトフレームの製作体験をした後は、ホテルの外に



出て、遊覧船に乗ったり、足湯に入ったりしました。校内組も、リモートで旅行隊の様子を観て、雰囲気を感じながら、足湯やお買い物体験を楽しみました。宿泊は「RAKO華乃井」さん、移動は「諏訪交通」さんと「ともゆきタクシー」さんをお願いしました。車いすのまま乗り入れのできる福祉車両も使わせていただきました。できるだけ大きな揺れがないよう道を選んで走行してくださいなど、細やかな気遣いがとても嬉しく思いました。

コロナ禍で行動制限などある中でも、たくさんの方々にご協力いただき充実した活動を行うことができました。

下諏訪向陽高校 元生徒自治会長  
生徒自治会長として学んだこと

植松 心希



この一年間で学んだこと

コロナ禍をどうプラスに転じたか

入学した時からコロナ禍であつたため多くの行事が中止になつたり、休校になつたり分散登校になつたりと、多くのことが制限されあこがれていた高校生活とは程遠い生活が続きました。私はコロナを言い訳にして、なにかを頑張るということがありませんでした。

しかし、そんな中でもなにかに夢中になって頑張っている人を見て、貴重な高校3年間をコロナを言い訳にして、無駄にしてしまいたくないと思い、2年生の夏に生徒自治会長候補という絶好のチャンスに飛びついたことが生徒自治会長という大役に立候補した理由です。

先輩方から生徒会を引き継ぎましたが、山ほどの問題と衝突しました。一番の問題は先輩方もできなかつた行事が多かつたことです。引き継ぎ会で先輩方の話を聞きましたが、行事の多くは中止になつたことでした。それに加え自分たちも経験したことのない行事がほとんどだったため、規制が緩和されてできる行事があつたとしてもどんなものかイメージができませんでした。

自分たちが経験したことのないイメージの湧かない行事を企画して運営していくことは、想像以上に難しいことでした。しかし、わからないからこそ今までのという固定概念がなくなり、新しいものを創っていく最高のチャンス！そこで、生徒会スローガンを「新境地」に決定！

「新境地」とは自らが開拓する考えといった概念を表し、コロナ前後を踏まえて新しいものをつくっていききたいという意味です。生徒会の最大行事は向陽祭です。向陽祭を企画していく上でも数えきれないほどの問題に直面しました。

・感染者を絶対に出してはいけないという最低条件

・コロナ前の文化祭に近づけたいが、コロナ前を知らない。  
・マスクを必ずしないといけないので、熱中症への懸念  
まずは、過去の資料をUSBから引っぱり出してきたり、生徒会室にあるヒントを見つけ出したり、コロナ前の向陽祭がどんなものだったのかを知るところからはじめました。そうしたところ、過去の資料はどれも密なんて気にしない楽しそうなものばかり。コロナウイルス流行前の文化祭に近づけて全校の皆さんに楽しんでもらいたい、しかし感染者を出さないようにするには多くの規制をかけざるを得ないという葛藤と闘い、生徒会役員でたくさん案を出し、先生方と数え切れないほど打ち合わせをして通常に近い形で行うことができました。

結果、役員のみ死ななげんばりで、無事成功を収めることができました。コロナ禍で入学し多くのことを我慢しながら生活していく中でコロナを言い訳にしている人も、なにも得るものはありませんでした。コロナのせいだと考えるのではなく、コロナのおかげでと、考え方を变えるだけで得るものはたくさんありました。

中止や延期など受け入れられないことも多くありましたが、生徒会役員一同前向きに考え、何回も折れてはみんな励まし合える生徒会のよさを感じることができました。

生徒自治会長という貴重な経験を務め、42期生徒自治会を創り上げてこられたことが私にとって高校生活一番の思い出です。

感染者を出さないように、役員が生徒の入退場するところで消毒を持って立ち、手指消毒と換気の徹底。熱中症への対策として、水分補給の時間をこまめにとる。「塩分チャージ」や「熱さまシート」の配布。そして、役員のモチベーションを上げるために、私から役員全員にキーホルダーと手紙をプレゼント。



# GSM元気なしもすわっ子学びの発表

なぎがまCS 下諏訪南小学校・下諏訪中学校コミュニティスクール  
**コロナ禍での活動紹介**

なぎがまCSは、平成27年に地域連携部、学校支援部、広報部で組織され、南小・下諏訪中学校に育つ子どもたちの豊かな成長を地域全体で支えていこうとする仕組みです。

今年度も昨年度に引き続きコロナ禍で、地域連携合同会議を再開することができませんでした。また、学校支援部もコロナ前に行っていた大相撲荒汐部屋との交流、OBSESSION・諏訪クアルレットの音楽鑑賞、ブナ林整備は中止しました。

しかし、コロナの感染状況にもよりましたが、学校支援部の活動で、読み聞かせ、クラブ活動への支援、総合的な学習の時間や教科学習の支援、奉仕活動を実施することができました。

## 学校支援部



読み聞かせ支援



教科学習支援

家庭科ミシンの使い方

## 地域ボランティア団体と協働



諏訪湖ゴミ清掃



稲刈り

## 総合的な学習の時間



子どもたちの安全を守る取り組み



乙女りんご摘花

## クラブ活動支援



調理クラブ



将棋クラブ

## 広報部



なぎがまCSだより 年1回発行

◇学校ごとの活動などを知ることができました。それぞれの学校で子どもたちが一生懸命取り組んでいる様子が見られて良かったです。特に花田養護学校の発表は、なかなか見ることができない学校内の取り組みや様子を見ることができ、知ることの大切さを感じました。

◇新型コロナウイルス感染がずっと続いて、行動制限やイベントの中止や縮小が続く中で、仲間とよく話し合い、一つのテーマでまとまり、成果を出している状況が発表され大変うれしく思いました。是非今後も継続して活動してほしい。

◇コロナ禍での授業は大変だと思えますが、今日の発表を拝見して元気な姿に感動しました。

◇子どもたちが主体的に下諏訪のことを知る・学ぶ、いろいろな方法を知ることができて良かったです。大人でも伝統を楽しみながら知ることができるといい機会となりました。子どもたちが楽しみながら学んでいる様子が伝わってきました。

## 参加者の感想から

◇どの園、学校とも工夫をこらした素晴らしい学びをすることが分かり、とても参考になり、また、うれしく感じました。下諏訪向陽高校の会長さんの話には心打たれるものがありました。コロナ禍で思うような学校生活を送れない中、コロナ禍でもできることを前向きに取り組まれた姿、感動的でした。

◇保育園から高校生までの活動を具体的に知ることができて、とても良かったです。コロナ禍ではありますが、みんなの中で考えて活動して、いい経験ができたようでも楽しい発表でした。参加して良かったです。

◇どの発表も素晴らしいかったです。町内にある他の学校の活動を知ることができ、子どもたちも良い刺激になったと思います。

## 町立図書館のお知らせコーナー

### 下諏訪町立図書館「やまびこの会」会員が表彰を受けました

公益財団法人「鉄道弘済会」は、毎年朗読録音奉仕者の表彰を行っています。

今年度、下諏訪町立図書館で視覚障がい者の方たちのために音訳や編集作業をされているボランティア団体「やまびこの会」所属の河西澄江さん、生田公一さん、岩垂幸子さんがそれぞれ表彰されました。



～録音図書の一例～  
『後宮の鳥』白川紺子/著 集英社 2018年

### 音訳ボランティア会員募集の説明会開催

日時：令和5年3月11日(土) 午後1時30分  
会場：下諏訪町立図書館 2階 会議室

持ち物等：筆記用具、マスク着用

■ 連絡先 下諏訪町立図書館  
(やまびこの会) ☎27-5555

朗読に興味のある方、読み聞かせの経験のある方、パソコン操作の得意な方など、あなたの特性が生かせるボランティアです。

ご興味のある方は、ぜひご参加ください。

### 下諏訪町公民館 春休み講座 参加者募集！

## ドローン講座

～見て、さわって、飛ばしてみよう～



日時：3月19日(日)

午前9時30分～12時

会場：下諏訪総合文化センター 小ホール

講師：諏訪圏マルチコプター協会 矢沢将紀先生

対象：一般(小学4年生以上) 10名

受講料：無料

申込開始：窓口、電話 2月13日(月) 午前9時～

■ 申込み・問合せ 下諏訪町公民館 ☎28-0002

### 令和4年度 町民大学

## 「和田嶺合戦と諏訪の意地」

をYouTubeで配信しています



攘夷の実行を訴え京都をめざす水戸浪士らを、諏訪藩・松本藩が樋橋で迎え撃った「和田嶺合戦」についてのお話です

講師：諏訪湖博物館専門研究員  
宿場街道資料館  
小口 徹 先生



※YouTubeは二次元コードからご覧いただけます

## 二月のふえ

幼少の頃。私は古釘を畳・柱・縁側等に打ちつけるということが大好きなゴタぼうずだった。

毎日のように、我が家の縁側にひなたぼっこをしにくる近所のじいさんが、

「バカオッコなことして。ヨマーレゾ」(とんでもなく悪いことをして、叱られるぞ) 声を聞いて現れた母に、

「シミルナエ。年のせいかわりに腰にきちまってズデ(めっきり)だめだ」

へところは富士見・立沢  
社会人になって。マイナス30度に達せんとする朝、同僚、

「ナシテ開かん、シバレテワヤダ。(手に負えない) ドアの鍵穴の奥まで凍ったべ。お湯持って来て」 女性社員、すぐ持ってきてドアにかけるが瞬時に水になって彼女の足下に。

「ヒー、シャツコイ」  
へところは北海道・北見

ちようど二月。昔の思い出である。

富士見から上諏訪の高校に通っていた頃は、同じ諏訪圏でもずいぶんヌクトイ所と感じたものである。諏訪湖は凍結していたのに。

地元の学校を出て大都会に。その頃の私はどうしたら標準語で滞りなく話せるか、ひたすら腐心していたように思う。

あからさまな差別はなかったにせよ、方言を口にするることにより「田舎者」と揶揄の対象となった時代背景もあった。

仕事をもち、全国に友人・知人が増えるにつれ、いつしか変な「構え」もなくなり、諏訪弁がちらほら出だし、それがまた各地の方言と混じり合って、人の「輪」と「和」が醸成されていったように思う。

標準語でかなえられない、味わい深いその地方、地方の言葉。なくなってしまう。

なくならない。味わい深いその地方、地方の言葉。

(編集委員 植松昌弘)